

— 短 報 —

エゾゼミの行動に関する一観察

下 野 谷 豊 一

山地性のエゾゼミ *Tibicen japonicus* が稀に生息地から遠く離れた平地で見つかることがあるが、福井市の市街地でも採集されたことがある。なぜこんなところまで移動してくるのか、その原因については全く想像もつかなかったが、1984年8月15日に福井市の西側に位置する国見岳(656 m)で、このような移動を引き起させる原因の一つと考えられる行動を観察したので報告する。

訪れた8月中旬は国見岳でのエゾゼミの最盛期で、山頂付近には沢山の個体が鳴いており、羽化殻とともに羽化したばかりと思われる♀もあちこちに見られた。少し採集しようと思ひ木に止っているものをネットで横から被せるようにするが、木の幹とネットの隙間から逃げたりして意外と採りにくい。こうして採集している間に採り損ねたものや、同じ木に止っていてネットが木の幹に当たった震動に驚いて飛び立つものがあり、その多くは水平方向に逃げるが、中に上空に向かうものもあり、この場合どんどん上昇してゆき仕舞には黒い点となり視界から消え去る。

当日このような行動をとるものを2例観察したが、この行動は偶然にとる例外的な行動であるかも知れないが興味ある行動であった。自然状態においても天敵から逃げる場合や何かに驚いて飛び立ったときなどにも、このような行動をとることは十分に考えられ、これは強い移動性をもつ蝶のアサギマダラが驚かされると上空に向かって上昇してゆくのと全く同様のものと考えられ、エゾゼミにおいてもこのようにして上空高く飛び上ったものが、上空の強い風に流されて通常の行動範囲をこえた遠い地点にまで運ばれるのではなかろうか。もしそうだとするとエゾゼミが生息地より遠く離れた市街地で見つかることも納得できよう。それに、この異常とも思える行動もある意味では分布域を拡大してゆくための潜在的な行動かも知れない。

ついでであるが、本来生息しないと考えられる大野市の三の峰でアブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata* を確認したので記録しておく。1984年8月19日に三の峰の標高1400mあたりで沢山のコエゾゼミ *Tibicen bihamatus* に混ってアブラゼミの鳴き声がするので、さらに近づいて観察したところ間違いなくアブラゼミの♂であった。鳴いていたのはこの一頭だけで、このあたりにはアブラゼミは生息せず、これも明らかに低いところから上ってきたものと考えられ、エゾゼミの場合と同様な原因で移動してきたのではなかろうか。